

## 学園祭

平成22年度の学園祭は、こどものまち「ミニぎょうだ」を商工センターで開催。銀行や放送局などのブースを開設し、お客さんとして招いた市内小学生を相手に商品を販売したり、働いた対価として会場内で使用できる通貨を受け取って各ブースで遊んだりしました。平成23年度からは「行田こどもまつり」で、自分たちで考えた店を運営しています。子供たちは、社会の仕組みを学び、責任感やコミュニケーション能力を身に付けることができました。



向井玄くん  
(泉小6年)

昨年度初めて参加し、今年度は2回目の学園祭でした。

今年度のコーナーの1つ「くるくるっかさん」は、自分が考えた内容です。実施できて、とてもうれしかったです。

昨年度は受付係だけだったけれど、今年度は遊びに来てくれた人に教える係で、対応が難しかったです。それでも、たくさんの方が来てくれてよかったです。



## 発表・交流会

大宮ソニックシティを会場に平成23年度から始まった「発表・交流会」。今年度も県内20の子ども大学が一同に集まり、体験の指導をしたり、これまで学んできた内容を発表したりしました。また、自分の名刺を作成し、上田県知事をはじめ、ほかの大学の子どもたちと名刺交換をするなどして、社会人としての入り口を体験することができました。



増尾瞳さん  
(南小6年)

今回初めて参加しました。名刺には習い事や特技などのプロフィールを書いて、自分だけの特別な名刺を作りました。たくさんの人と名刺交換ができて楽しかったです。また、学園祭で作ったものや、入学式からの写真などを展示しながら「子ども大学ぎょうだ」のPRをしてきました。

会場には自転車で発電する体験コーナーがあり、これでまち中の電気を作ることができればいいなと思いました。



「子ども大学ぎょうだ」に参加した子供たち誰もが、目まぐるしくと輝かせていました。

学園祭で、自分たちの企画が「お店」という形になって表現できた喜びや、発表・交流会で上田県知事と名刺交換をするといったドキドキ感などは、子ども大学でしか味わうことができないのではないのでしょうか。

「子ども大学ぎょうだ」に参

ものつくり大学の教授による講義や郷土博物館の学芸員による解説など、学校では経験できないことを学習できるとあって、子供たちは「子ども大学ぎょうだ」の授業を毎回楽しみにしているようでした。また、自分を通っている学校以外の子供たちと交流を図りながら授業を受けることで、多くの友達ができたようです。



向井久恵さん  
(清水町)

子ども大学でしか  
できない体験を

保護者の声

広々としたキャンパスに、視聴覚機器が完備された教室。そこに一歩足を踏み入れただけで、「子ども大学ぎょうだ」に参加した子供たちは自分が少し大人になったような感覚にとらわれるでしょう。

「子ども大学」が持つ魅力とは何なのか……。それは、目の前で大学教授や地域のプロフェッショナルが興味・関心をくすぐる授業を展開する中で、疑問を持つことの大切さと答えを導き出したときの感動が味わえること、そして、たくさんの友達と一緒に学ぶことができる場所があることです。

## 広がる可能性と 友達の輪

子供たちは、いろいろなことに興味を持ちます。子どもだからこそ見つけ出せるものもたくさんあります。「なんでだろう」をそのままにしておいてもよいのでしょうか。「知りたいな、調べてみよう」と思うきっかけをつくることで、子供たちのあらゆる可能性は大きく広がっていくはずで

す。

最近では、地域の行事やイベントにあまり参加しないなど、人と関わるのが苦手な子が増えています。「子ども大学ぎょうだ」は、学びの場であると同時に友達づくりの場でもあります。学校も学年も異なる初めて出会う人ばかりの中でも、子供たちはすぐに仲良くなれる能力を持っています。目の前にいる知らない相手にも勇気を持って話し掛けてみることから「友達の輪」が広がり、社会で必要なコミュニケーション能力を伸ばすことにつながります。

## 「なんでだろう」 から夢を見つける

「子ども大学ぎょうだ」は、主に夏休み期間に実施しています。平成25年の夏も、多くの子供たちの知的好奇心を刺激する学びの機会を提供する予定です。

「子ども大学ぎょうだ」でわが子の可能性を見つけてみませんか。きっと子供たちは、小さな「なんでだろう」から大きな夢を見つけてくれるはずで



▶問い合わせ ひとつくり支援課生涯学習担当 ☎556-8319